

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市こどもクリエイティブタウン		
課 名	商業労政課		
指定管理者名	株式会社丹青社		
指定期間	令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和8年6月2日（火）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 福地 剛 （経済局次長兼商工部長） ②委 員 小林 以津子（商業労政課長） ③ “ 福井 秀明 （産業振興課長） ④ “ 大石 真裕 （（一財）静岡経済研究所 主席研究員） ⑤ “ 岸本 道明 （国立大学法人 静岡大学 客員教授）		
評価点 (各委員平均点)	90.2点	評価	A・B・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	指定管理者のネットワークを活かした創意工夫により、仕様書の通り適切な事業運営が実施されているものと判断する。 主要事業であるこどもバザールは、常設でおしごと体験ができる全国でも類を見ない取組であり、こどもたちの自主性や創造性の育成に大きく寄与しているものとする。 また小学校卒業生が継続して運営に関わる取組であるMJV、MASは、施設で育った若者とこどもたちが相互に関わり合う好循環なサイクルが形成されており、新たな価値創造に努めるとともに、この取組を活用したこどもたちの状況把握も検討していく。 今後も引き続き、企業や地域等の様々なステークホルダーとの連携を強固にし、利用者のニーズにあった事業を実施していく。		

総合評価結果総括表

施設 の 名 称 [静岡県こどもクリエイティブタウン]
 指定管理者名 [株式会社丹青社]

課名[商業労政課]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平 均 点
1 履行状況の確認 【配点50点】						
(1) 仕様書等に示された事業が予定どおり円滑に実施されたか。	28	34	33	34	33	32.4
ア 模擬店舗等における仕事やものづくりの体験の事業	8	10	10	10	10	9.6
イ 仕事やものづくりを通じた創造力の育成を目的とする講座、研修等の事業	4	5	5	5	4	4.6
ウ 仕事やものづくりを通じた創造力の育成を目的とする展示及び情報提供等の事業	3	4	4	5	5	4.2
エ 学校・団体利用に関する事業	5	5	5	4	4	4.6
オ 記念イベントの企画運営	4	5	4	5	5	4.6
カ 市民・企業・研究教育機関等との協働による運営に関する事業	4	5	5	5	5	4.8
(2) 施設利用に関する業務が適切に実施されたか。	3	5	4	5	4	4.2
(3) 適正な能力を持った職員が適正な人数配置されたか。	3	5	4	4	4	4.0
(4) 施設の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施されたか。	5	5	4	5	5	4.8
小 計	39	49	45	48	46	45.4
2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(1) 施設利用者数の増加に向けた取組が実施されたか。	4	4	5	4	5	4.4
(2) 大学生等と協働して取り組む事業が実施されたか。	5	5	5	5	4	4.8
(3) 戦略的で効果的な広報・情報発信が実施されたか。	4	5	4	4	5	4.4
小 計	13	14	14	13	14	13.6
3 市民（利用者）のサービスの向上 【配点15点】						
(1) 施設の利用状況について検証し、改善に向けた取組みがなされているか。	5	5	4	5	5	4.8

(2) 利用者の満足度調査を実施し、結果を反映させた運営を行っているか。	3	5	4	5	4	4.2
(3) 利用者の苦情等に速やかに対応したか。	4	5	4	5	5	4.6
小 計	12	15	12	15	14	13.6
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(1) 企業・地域（商店街）・経済団体等との連携・交流を行い、利用者満足度の高い事業が実施されているか。	12	20	20	20	16	17.6
ア 企業・経済団体と連携し、実体験に近い講座等を実施している	4	10	10	10	8	8.4
イ しごと・ものづくり講座の新規企画に数多く取り組んでいる	4	5	5	5	4	4.6
ウ 地域（商店街）と連携した取組を実施している	4	5	5	5	4	4.6
小 計	12	20	20	20	16	17.6
合 計	76	98	91	96	90	90.2

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】
・回数などで評価しない場合どう評価すべきものなのか。 ・効果や品質の評価できるような基準がほしい。 ・新規顧客獲得策の効果は。 ・運営改善の努力が見られる。 ・仕様以外の業務が相当多い印象。提案者の工夫がみられる一方で評価基準が定まらないのでは。
【B評価委員】
・こどもの自主性を重視し、大人が極力手や口を出さない工夫がなされている。 ・MJV、MASの仕組みを構築し、まあで育ったこどもが次の世代の育成に関わるループができてきていることは素晴らしい。 ・地域の専門学校生が子どもたちの講師となることで、若者もまき込んだ人育てにつながっていることが評価できる。
【C評価委員】
・MJVやMASの仕組みが興味深い。 ・効果検証した上で他施設への横展開も視野に入れるとよい。 ・こども市長選挙のようなリアル体験を追求した企画が増えるとよい。
【D評価委員】
・活動指標的には全く問題なし。 ・MJV、MASのような好循環が生まれており素晴らしい。 ・大学、専門学校等とのネットワークが広がっていて高評価。 ・クレーム件数少なく適切に運営されていると思われます。 ・積極的に連携交流し満足度の高い事業が行われている。
【E評価委員】
・確実に仕様書通りの事業が展開されている。 ・高校生の利用は今後考える必要がある。 ・MJV、MASの存在は本施設の価値を高めている。 ・スタッフについては危機管理を踏まえての配置を考慮してない。 ・自主事業全体では本格的な展開がされていると評価します。 ・大学、専門等との連携が増加しているのは望ましいが、より多くの大学等の協力を得られれば良いと思う。 ・企業、経済団体がもう少し多様化した形のものとなると喜ばしい。

評価委員会としての意見
・仕様書の通り適切な事業運営が実施されている。 ・主要事業であるこどもバザールではこどもの自主性を尊重した事業が実施されている。 ・小学校卒業生が継続して運営に関わる仕組のMJV、MASは価値の高い仕組みである。 ・指定管理者のネットワークを活かした企業や教育機関等との連携により、工夫を凝らした事業が展開されている。 ・取組の品質や具体的な効果が可視化しにくい事業も一部あるため、可能な限り評価基準を定量化できると望ましい。